

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	16-109	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Distribution Characteristics and Combined Effect of Polymorphisms Affecting Alcohol Consumption Behaviour in the Hungarian General and Roma Populations. アルコール摂取行動に影響を及ぼす遺伝子多型のハンガリー在住一般人およびロマ人集団における分布特性とその交互作用		
<b>執筆者</b>		
Diószegi J, Fiatal S, Tóth R, Moravcsik-Kornyicki Á, Kósa Z, Sándor J, McKee M, Ádány R.		
<b>掲載誌</b>		
Alcohol Alcohol. 2017 Jan;52(1):104-111. doi: 10.1093/alcalc/agw052. Epub 2016 Aug 10.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、ロマ、遺伝子多型		27511636
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>            ロマの青少年における有害な飲酒習慣は一般人に比べて良く見られる。この研究の目的は、ロマが（ロマ人以外の）ハンガリー一般集団に比べ危険な飲酒を行いやすいのは遺伝的な影響であるのか評価する事である。</p> <p><b>方法：</b>            ハンガリーのロマが離れて暮らす集落から計 1,273 人、ハンガリーの一般人から 2,967 人が 25 の遺伝子多型について判定された。そして遺伝子型、対立遺伝子の差を調べた。一塩基多型の複合的な影響を推定する為、遺伝リスクスコア(GRS)を求めた。重み付けの有無別に GRS を計算し、対象集団におけるスコアの分布を比較した。</p> <p><b>結果：</b>            17 の SNPs における対立遺伝子の頻度は集団間で有意に異なった(<math>P &lt; 0.002</math>)が、有害な飲酒に対する促進的あるいは保護的な遺伝的变化がロマにおいて過剰発現されている訳ではなかった。</p> <p><b>結論：</b>            本結果からは、ハンガリー在住ロマ人と一般人におけるアルコール摂取習慣の違いは遺伝的特性に由来するとは考えにくく、文化的価値観や環境曝露によるものかもしれない。ロマ集団における有害な飲酒を減らすには、文化的受容性を考慮した根本的な飲酒推進要因に対峙する、集団に根差した対策が必要である。</p>		